

授業概要

本授業では、家族をどうとらえるか、これまでの研究知見による見方を学び、家族心理学への理解を進める。また、家族がどのように生まれ、育ち、変遷していくのか、さらに各段階にはどのような臨床的問題が生じるのかという家族ライフサイクルとしての視点からも理解を深め、支援のあり方についても学ぶ。

授業では講義に加えてワークを所々で実施しながら実践的な学びを展開するため、積極的に参加してくれることを望む。指定したテキストに沿って基本的には進めるが、担当者が加えて重要と考える内容や受講生からのリクエストも加味するため多少前後することはある。

授業計画

第1回	授業のガイダンス、 家族の発達と家族システム理論—家族をどうとらえるか
第2回	家族を理解するための鍵概念—家族をどう見立てるか
第3回	独身の若い成人期—愛情関係の形成と家族づくりの前にやっておきたいこと
第4回	結婚による家族の成立期—夫婦としての絆づくり
第5回	乳幼児を育てる段階—「親になる」とは
第6回	小学生の子どもとその家族—子育て期のエアポケット
第7回	若者世代とその家族—子どもたちの巣立ちの時
第8回	老年期の家族—老いを迎える家族
第9回	家族への臨床的アプローチ—家族療法入門と家族アセスメント
第10回	夫婦関係の危機と援助—カップルカウンセリングと夫婦関係への支援の実際
第11回	子育てをめぐる問題と援助—次世代を誰がどう育てるか
第12回	家族が経験するストレスと援助—災害・喪失・病気など
第13回	家族の中のコミュニケーション—コミュニケーション学派の視点
第14回	女性・男性と家族—女性と男性からみた家族像の違い
第15回	近年の家族の問題—理想の家族像がもたらす弊害と近未来の家族
第16回	筆記試験

到達目標

対人援助や教育の現場で家族を理解し支援するために、必要な知識や理論を習得する。
 家族援助の現場で用いられる家族療法の基本的な技術や理論を体験的に身につける。

履修上の注意

- ・原則 20 分以上の遅刻は欠席、遅刻は 3 回で 1 回の欠席とします。4 回以上の欠席は、成績評価の対象外とします。
- ・小課題やディスカッション課題などを適宜行います。
- ・注意事項について初回の授業時に伝えるため、初回授業には必ず出席してください。

予習・復習

復習を中心にしてください。授業の復習を身に着けるように心がけてほしいです。

評価方法

授業態度・参加度（20%）、小レポートやペーパー提出（30%）、定期試験（50%）、これらを踏まえての総合評価

テキスト

【タイトル】 家族心理学—家族システムの発達と臨床的援助—
 【著者】 中釜洋子・野末武義・布柴晴枝・無藤清子 【発行年】 2008
 【出版社】 有斐閣ブックス